

地域アクションプラン総括シート(案)

(高知市地域)

【地域アクションプラン 総括シート】

≪高知市地域≫

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>1. 地域の基幹品目の振興</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。</p>	<p>生産面では、高収量、高品質化等のための対策（生育調査、防除対策、栽培指導、品種選定の検討等）を実施。</p> <p>・加工面では、下級品を利用したトマト・キュウリ・ショウガの販売開始。新高ナシは、リキュール、シャーベット、ジャムの原料として出荷。</p>	<p>○22年度販売額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ 30.8億円 ・ショウガ 23.7億円 ・メロン 3.2億円 ・トマト 4.4億円 ・イチゴ 1.0億円 ・新高ナシ 3.3億円 ・ユズ 1.9億円 ・ユリ 4.2億円 ・グロリオサ 8.1億円 ・水稻 12.5億円 <p>○下級品の付加価値向上</p>	<p>主業農家に占める認定農業者の割合 (H20 40%) 45%</p> <p>基幹10品目の販売額 (H19 99億円) 99億円</p>	<p>H22 : 47.4%</p> <p>【H22販売額】 93.1億円</p>
<p>2. ショウガの安定供給と消費拡大</p> <p>基幹品目であるショウガ（露地ショウガ、ハウスショウガ）の安定生産と供給、第二次産業との連携による消費拡大とPRのための取組を進め、農家所得の向上を図る。</p>	<p>①臭化メチル代替技術実証は設置・調査（戦略品目等技術実証事業）、研修会・品目別研究会・現地検討会等を実施。</p> <p>②「エコシステム栽培」、「エコファーマー」導入計画作成支援や「こうち環境・安全・安心点検シート」の見直しと実施への誘導を実施。</p> <p>③JA高知市がショウガシロップ、ジャムを販売、JA高知春野がショウガゼリー、ジャムを販売。</p> <p>④強い農業づくり交付金を活用してJA高知市がショウガ予冷庫を整備。</p>	<p>○22年度販売額 23.7億円（再掲）</p> <p>○加工品開発と販売額（H23.1末） （JA高知市） ・珈琲：18,858本、6,070千円 ・ジャム：5,674瓶、1,840千円 （JA高知春野） ・ゼリー：18,475個、2,830千円 ・ジャム：4,095袋、920千円</p>	<p>ショウガの販売額 (H19 21.4億円) 23.3億円</p> <p>うち露地ショウガ (H19 11.8億円) 11.8億円</p> <p>うちハウスショウガ (H19 9.6億円) 11.5億円</p>	<p>【22園芸年度販売額】 23.7億円</p>
<p>3. ヌズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>中山間地域の基幹品目であるヌズの生産拡大に対応できる施設整備や担い手の振興策等の「ヌズ振興総合対策」の実施により、中山間地域の活性化を図る。</p>	<p>①土佐山ユズ搾汁施設改修に対する国・県・市の補助</p> <p>②優良複製母樹の確保と技術指導</p> <p>③次世代母樹候補樹の探索と形質調査</p> <p>④出荷予測点検場調査と肥大補正数値の見直し</p> <p>⑤GAPの学習会</p> <p>⑥搾汁開始時期の前進化提案</p> <p>⑦加工残渣処理可能施設の情報収集と提供</p> <p>⑧研修会・学び教え合う場の開催</p>	<p>○22年度販売額 1.9億円（再掲）</p> <p>○搾汁処理能力の向上（＝腐敗防止対策の向上）</p> <p>○加工残渣の迅速な処理</p>	<p>ユズの販売額 (H19 1.6億円) 1.7億円</p>	<p>【22年産ユズ販売額（推計値）】 1.9億円</p>
<p>4. 中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>・集落座談会、現地検討会、視察研修等の実施</p> <p>・中山間集落営農等支援事業によるこうち型集落営農モデル組織への補助 H22 : 14,028千円（2集落）</p>	<p>○集落営農による農業生産の安定</p> <p>・地域の経費支出の削減（共同利用機械）</p> <p>・労働力の有効活用（協業生産）</p> <p>・農産物生産の拡大</p> <p>・加工の安定化</p> <p>・収益の確保</p> <p>○集落の環境改善</p> <p>・放置竹林の整備</p> <p>・竹林の間伐の推進</p> <p>・筍等加工残渣処理</p>	<p>こうち型集落営農モデル組織 (H20新規) 2組織</p> <p>集落営農組織（累計） (H19 1組織) 10組織</p>	<p>こうち型集落営農モデル組織： 2組織（H22年度）</p> <p>集落営農組織： 3組織（H22年度）</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>高収量、高品質化等の対策が進み、販売額も年度毎、品目毎の変動はあるものの、ほぼ目標とする水準を維持している。</p> <p>また、認定農業者の割合も高まるなど、生産性の高い経営体も増えてきている。</p> <p>加工については下級品を有効利用した加工商品が大幅に増加するなど一定の成果があった。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産の高収量、高品質化、コスト高騰対策 ・高知ブランドをPRする流通・販売対策 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果の上に立って、品目毎の課題の解決に向けた取り組みを強力に進め、農家所得の向上につなげる。 ・加工については、収入の向上に寄与する水準を目指し、販路拡大への取り組みを進める。 	
<p>販売額は目標とする水準を上回る形で推移している。また、「安心安全な農産物」として市場での有利な販売につなげるため、新たに「エコシステム栽培」認定品としての販売を開始し、一定の評価を得ている。</p> <p>加工品についても活発な動きがみられ、販売額も増加するなどの成果がみられる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産と販売戦略の確立 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術の高位平準化やエコファーマー技術導入に向けた支援などとともに、新たに整備する予冷庫の有効活用により市場でのさらなる評価向上につなげる。 	
<p>ユズ搾汁施設の改修により加工体制が強化され、また、大口需要者との継続的な取引が実現し、販売も安定する等一定の成果が見られた。</p> <p>また優良母樹の確保対策なども、ほぼ計画どおり進んでいる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズの搾汁施設の衛生面での一層の信頼性の確保 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版HACCPの取得などにより衛生面での信頼性の向上を図り、より安定的な販売につなげていく。 	
<p>こうち型集落営農モデル組織である2組織においては、それぞれ法人化に向けた検討やソラマメの試験栽培等協業化に向けた取組が着実に進んでいる。</p> <p>また、集落営農組織の拡大は、目標である10組織の立ち上げには至らなかったものの、数集落では組織化に向けた検討が進んでおり、今後に期待ができる状況である。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落営農組織の確立とレベルアップ <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落座談会や勉強会、先進地視察研修等を引き続き行い、組織の確立とともにリーダーの育成と資質の向上に努める。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>5. 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業で製氷機の導入や販路開拓の取り組み。 H22：4,143千円 ・産業振興アドバイザー制度（5回） ・長期貯蔵品質調査1回開催 ・栽培技術の研修会1回開催 ・目慣らし会1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○一次加工 ・製氷機導入による品質向上（＝腐敗防止対策の向上） ○二次加工 ・真空パック商品の技術開発と試験販売（予定） →新たな取引先の開拓（予定） 	<p>四方竹の販売額 (H19 3,360万円) 4,200万円</p> <p>*当初目標 3,700万円</p>	<p>四方竹の販売金額39,823千円 ※七ツ洲・土佐山分 (平成22年度)</p>
<p>6. 鏡川流域での有機・無農薬等ECO農業と菓草の里づくり</p> <p>「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、加工・流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有機市民農園の管理運営委託の締結 ・栽培講習会の開催や交流会の実施 ・とさやま開発公社の農商工連携セミナーの参加及びふるさと雇用の導入（6名） ・鏡直販組合において生産履歴チーム会の開催及び農業創造人材育成セミナーへの参加（5回） ・ミシマサイコ：現地検討会5回、視察研修3回、調査6回を実施 ・ホソバオケラ：調査を6回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・農園利用者と地域との連携した取り組み ・有機栽培を行っている生産者と量販店との間で取引開始 ・記帳率100%となり「安心・安全」な直販所としてPR ・ミシマサイコの取り引き、約25万円 	<p>有機JAS認定事業者数 (累計) (H19 2事業者) 5事業者</p>	
<p>7. 春野地区の農産物（トマト等）の付加価値向上</p> <p>新たな価値を創造する野菜・果実の地区内生産と地区内農産物を活用した新たなレシピや加工品を開発するとともに、当該加工品などの販売を行う「マルシェ併設農産物加工工場」を整備することで、6次産業化による春野産農産物の新たな販路確保と農家所得の向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。</p>	<p>高知県産業振興推進総合支援事業（加工場建築、厨房機器類等の導入） H23：70,139千円（金額は交付決定時の事業費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H23.9 新加工場操業開始予定 ・加工用野菜栽培技術確立に向けた調査と栽培指導 5月から10日毎 ・3種類9アイテム（パスタソース、ジンジャーエール、ピクルスなど）の商品開発 ・商人塾への参加（H22） 	<p>農産加工品を開発し、試験販売開始（イタリアントマト関連商品、黄金生姜関連商品、野菜・ハーブ関連商品） H22：1,400千円</p>	<p>農産加工品の販売額 (H22新規) 1,855万円 (H23加工工場稼働につき6ヶ月の目標)</p>	
<p>8. 稲ホークロップサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活</p> <p>稲WCS（稲発酵粗飼料）の生産・供給により、酪農家の粗飼料自給率の向上を図るとともに、稲WCSを給餌した牛乳として付加価値を高めることで、酪農家の経営安定化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H21に国費、産振補助金を活用し飼料専用コンバイン、自走式ラッピングマシンを導入（事業費10,754千円 国費6,826千円 産振2,096千円） ・H22広島県に1泊2日で視察研修（16名参加） ・H23岡山県に1泊2日で視察研修予定 ・H23年度に水田への堆肥施用実証実験（1.6ha計画）予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料生産延面積の拡大 H20：14ha→H22：33.5ha ・H22の水田跡ソルゴーの栽培実験（3.8ha）ののち、H23に本格栽培がスタートした（10.0ha） ・他地域への波及 	<p>飼料稲の栽培面積 (H20 14ha(実証)) 30ha</p>	<p>飼料稲8.16ha（一期） ソルゴー10ha</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>販売額は年々伸びており（H19：3,360万円→H22：3,982万円）、今後も伸びて行く見込みである。</p> <p>高級量販店との間で真空パック商品の商談が進むなど、販路拡大の動きも具体化している。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大に伴う販売単価の下落への対応 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限界が近付いている一次加工体制の整備 ・ニーズに対応した商品開発をすすめ、四方竹を全国に知られるブランドとして育てる。 ・宝味噌以外の二次加工品を開発するなど、バリエーションを増やし販売額の増加を目指す。 	
<p>有機JAS認定農業者数は目標値には届かないものの、新たな取引や鏡直販での100%記帳の達成、ミシマサイコの取り引き開始など、具体的な成果がみられる。</p> <p>有機市民農園の開設、開園後の管理運営が円滑に実施され、農園利用者の有機農業への理解が深まった。また、収穫感謝祭（交流会）の実施により、農園利用者と地域との連携した取組みへの足がかりができた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機・無農薬等Eco農業推進の取り組みの核となる（財）夢産地とさやま開発公社の計画的な事業展開 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機の里としての認知度を高め、所得の向上、担い手の確保につなげていく。 	
<p>平成23年秋からの農産物加工場におけるトマトソース、ジンジャーエール等の本格的な製造・販売に向けて、商品開発や販路開拓が積極的に進められており、新たな商談が持ち込まれるなどの成果がみられる。</p> <p>また加工用トマト（サンマルツァーノ）やピカンテペッパーの栽培技術の確立に一定の目途がつくなど、地域の農産物生産者と連携した取組みが進んでいる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料となる農産物の安定生産 ・販路の確保 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面での継続的な技術支援 ・見本市、商談会への参加と取引先との関係の強化により、一層の販路の開拓 ・より競争力のある商品の開発を行うことで、雇用の拡大、農家所得の向上につなげていく。 	
<p>平成22年度には飼料稲33.5haと一時的には目標を達成していたが、耕・畜間の取引条件の変更等により、23年度は目標を相当下回る見込み。</p> <p>しかしながら、H22年度に試験栽培で取り組んだ水田跡のソルゴーの栽培拡大が見込まれるとともに、水田へのたい肥散布が予定されるなど、この事業に取り組むことによって今までなかった耕畜連携も進んでいる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酪農家と耕種農家の相互理解の醸成 ・稲WCSの高品質化技術の習得と収穫期の調整 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や計画的な作付指導を継続的に実施し、酪農家と耕種農家の両者にメリットが高い仕組みの構築を図る。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>9. 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H21に産振補助金(8,833千円)で機器を導入し焼き菓子事業を開始 (H22.5.15よりリニューアルオープン) ・アドバイザー制度活用H21、5回H22、5回 ・ふるさと雇用により2名新規雇用 ・オープンファームの開催 H22 3回 H23 2回(7月末時点) ・酪農教育ファームの実施 H22 7校 372名参加 H23 ・店舗外での販売の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトクリーム^{のみ}の販売から、ロールケーキやシュークリーム、プリンといった新商品を開発し、「牧場のお菓子屋さん」としてリニューアルオープン。 ・商品アイテム、販売額が徐々に増えつつある。 	<p>菓子類の販売額 (H20新規) 1,440万円</p>	<p>H22年度新商品販売額 3,912,420円 (月373千円) H23.4~6月の 新商品販売額 1,463,979円 (月488千円)</p>
<p>10. 民有林における間伐の推進</p> <p>建設業者等の異業種と連携した「森の工場」などによって間伐を進めるとともに、個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進により、放置林の解消につなげる。</p>	<p>市有林での協定参加について企業へ働きかけを実施中(延べ3社)除・間伐の造林補助金の活用 H22 造林補助金9,557千円</p>	<p>間伐実施面積(H22年度) 187ha 間伐実施 8ha、1,987m³</p> <p>間伐実施面積(H23年度6月現在) うち森の工場：間伐実施中</p>	<p>間伐の実施面積 (H19 285ha) 250ha</p> <p>うち森の工場の間伐実施面積及び素材生産量 (H19: 5ha、 210m³) 25ha、 2,000m³</p>	<p>間伐実施面積 (H22年度) 187ha うち森の工場の間伐実施面積及び素材生産量 8ha、 1,987m³</p>
<p>11. 県産材の地域における需要拡大</p> <p>県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の地産地消を推進する。</p>	<p>H22県産材PRのための里山の家完成、里山の家のパンフレット配布 H23産振ステップアップ事業活用予定(補助金額100万円)</p> <p>木材需要の拡大や森林整備を推進するためのイベント(「高知もくもくランド」)に助成</p>	<p>PR活動により里山の家が(H22年度2棟)</p>		
<p>12. 高知市バイオマスタウン構想の実施</p> <p>木質バイオマスの利用拡大により、林地残材などの未利用資源の有効活用につなげるとともに、荒廃した竹林を整備し、伐採した竹をバイオマスとして有効活用することにより、竹による里山の生態系等への被害の拡大を防ぎ、もって循環型社会の形成や農山村の振興を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスの市場調査 ・竹チップマルチング材の実証実験の実施 ・企業訪問の取り組み ・木質バイオマス事業に取り組む事業者の掘り起こしや補助制度の普及 			

総括	今後の方向性	備考
<p>店舗の知名度も徐々に上がり、店舗はもちろんのこと、県庁生協等店舗外での売上金額も増えてきている。また、原則毎月一回開催（雨天の場合中止）しているオープンファーム等のイベントによって、牧場を身近に感じてもらう取り組みも始めている。</p> <p>新商品のみでの120万の売り上げには届いていないが、従来からのソフトクリームとの合計売上げでは120万円を超えており、24年度以降も雇用の継続が可能と思われる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規顧客の開拓とリピータの確保 顧客ニーズにあった商品開発 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗の知名度を上げるため、販促活動を充実、強化するとともに、アドバイザーの助言を着実に実行するなど、顧客の満足度を高める店舗運営を行う。 	
<p>森の工場内での間伐面積等は増加しているが、民有林での協働の森や異業種の参入等は進んでいない。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施業拡大に向けた森林組合の人員体制の確保 民有林版協働の森事業参加への意識づけ <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他事業者とのコラボレーション型事業の拡大に向けて、市有林などの実施可能な場所から作業を行い、実績を積んでいく。 協働の森事業の一層のPR等協賛企業の確保に向けた取り組みを強化する。 市有林を対象とした「環境先進企業との協働の森づくり事業」の新規案件企業への対応や、国の補助制度改正による間伐事業への影響の見極め、他部署との調整を検討する。 	
<p>新たに整備されたこうち木の家ネットワークのモデルハウス里山の家では、件数は少ないが成約実績もあがっている。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産材に対する信頼性の向上と里山の家等の認知度のUP <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産材や里山を家のPRとともに、県産材のトレサビリティの確立や、木材産業の川上から川下の連携を図っていく取り組みを進め、安心安全な県産材の利用促進につなげていく。 	
<p>現時点で具体的な成果は見られない。 (竹バイオマスについては、企業の新たな動きがみられれば、進展も期待できる。)</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマス等利用の意識醸成 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、企業訪問等を実施する中で、具体的な取組みのニーズ、シーズを探る。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>13. 底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大</p> <p>高知市御豊瀬地区の底曳網による漁獲物の消費拡大に向けた取組を進め、漁家経営の安定化を図る。</p>	<p><H21></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性グループ「ねえやんみませ」の結成 ・水産庁の「活力ある漁村づくりモデル育成事業」に採択され、空き家調査(3回)・水産物の加工研修(19回)、食育活動(1回)の実施、みませ祭りの開催。 <p><H22></p> <ul style="list-style-type: none"> ・底びき網漁獲物を使った加工品の試作・販売 ・試食会の開催(1回) ・沖底漁獲物の加工事業化協議(4回) <p><H23></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工業交流促進協議会に沖底曳網漁家が参加 	<p><H21></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねえやん御豊瀬の「みませ祭り」での売上高:22万円 ・みませ祭りの来場者:500人 <p><H22></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たるばあやって御豊瀬ん会の「ふるさとフェスティバル」での売上:10万円 		
<p>14. 冷凍ドロメの販路拡大</p> <p>冷凍ドロメの販路の拡大を図り、生産量を増やすことによって、漁家所得の安定や向上につなげる。</p>	<p>・活動検討会の開催(毎月1回)</p> <p><H21></p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍どろめ加工グループ「どろめっ娘」の結成。 ・「春野さんさんくろしお市」への出店 <p><H22></p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍どろめ製造技術講習会の実施 ・「春野さんさんくろしお市」への出店 ・土佐漁村起業交流会への参加 <p><H23></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンプル出荷(1件) ・大阪市場関係者との交流会に参加 	<p>・売上</p> <p>H21:77万円(うち冷凍どろめ61万円)、H22:63万円(うち冷凍どろめ40万円)、H23.7時点:17万円</p>		
<p>15. 販路拡大支援の充実</p> <p>地域産品の県外への販路拡大に向けた取組を進め、外貨を獲得することにより、産業の活性化につなげる。</p>	<p>高知市販路拡大チャレンジ事業(助成金)</p> <p>H21:12社認定1,843千円</p> <p>H22:19社認定2,901千円</p> <p>H23:上半期10社認定</p>	<p>H22:成約件数73件 成約金額70,328千円</p>		

総括	今後の方向性	備考
<p>当初は地域協議会と漁村女性グループを中心に、加工品開発、加工品の販売活動に取り組んだが、リーダーの不在等により、現在取り組みが滞っている。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の再構築 ・地域の主体的な取り組み意欲 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みの総括の上に立って、地域主体の新たな展開の可能性について検討する。 	
<p>21年度にバッチ漁業者全員が参加した加工グループを結成し、毎月1回のペースで活動検討会を開催してきたが、組織的な活動になっておらず、生産量の増加、販路拡大にはつながっていない。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な加工・販売体制の確立 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間での意識の共有を図りながら、具体的な生産・販売計画の検討を行うなど、組織的な活動に向けた取り組みを展開する。 	
<p>事業実施により、成約件数、金額面で一定の成果はみられる。</p>		<p>行政の一般的な支援施策であり、APへの位置づけ可否を要検討</p>

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>16. 土佐のものづくり企業による地産外商の推進</p> <p>機械・金属を中心とした「ものづくり企業」の受注拡大や販路拡大に向けた取組により、地場産業の活性化を図り、雇用機会の増大を目指す。</p>	<p>(見本市への出展ブース設置)</p> <p>H22 ・NEW環境展：15社出展 ・関西機械要素技術展：11社1団体出展</p> <p>H23 ・NEW環境展：11社出展 (商談会)</p> <p>H22 ・土佐商談会2010：13社参加 ⇒商談会・工場訪問・工場見学会 ・土佐技術提案商談会2011：11社参加 ⇒展示・プレゼン・商談会・工場訪問・工場見学会 (企業訪問)</p> <p>H23 H22年度に高知市雇用創出促進協議会が主催で実施した商談会に参加した県外発注企業6社を訪問し、受注拡大の推進等を図る。</p>	<p>(見本市への出展ブース設置)</p> <p>H22 ・NEW環境展：成約34件 ・関西機械要素技術展：成約82件</p> <p>H23 ・NEW環境展：成約4件 (商談会)</p> <p>H22 ・土佐商談会：成約709件 70,186千円 ・土佐技術提案商談会：成約3件 1,100千円</p>		
<p>17. 工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化</p> <p>販路の拡大や経費削減、人材育成に関するセミナーや研修など、企業等の課題に対応する情報の一元的な提供により、競争力の強化につなげる。</p>	<p>(産業情報政策の一元化)</p> <p>・高知県製造業ポータルサイトのお知らせ機能を活用し、以下のような各支援機関の情報を一元化</p> <p>①経営者等に関するセミナー情報 ②販路拡大に向けた商談会、見本市等への出展情報 ③行政機関等が策定する産業振興支援策 ④その他</p>			
<p>18. 環境に優しい未活用資源の有効活用</p> <p>各産業の連携によって、未活用食材を使った商品開発の取組を検討し、「地産地消」「地産外商」「1.5次産業」の推進を図り、産業振興を目指す。</p>	<p>(未活用食材)</p> <p>・バイヤーへの紹介及び企業訪問</p> <p>(食品加工)</p> <p>・食品工業団地との意見交換 ・農商工連携マッチングセミナー</p>			

総括	今後の方向性	備考
<p>・受注拡大の機会提供に貢献しただけにとどまらず、県内企業の営業活動に刺激を与え、受注拡大機運の高揚につながった。</p> <p>・当該事業を通して関係機関との連携が図られ、商談会に参加した企業は商談会後に56名の採用が行われており、雇用創出の面で一定の成果が見られて、以降の事業展開に引き継がれる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政機関、支援機関が一体となった企業支援体制の確立 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談会の開催や見本市への出展がより効果的な企業支援となるよう、各機関との連携、調整を図っていく。 高知県、高知市、南国市、香南市が（財）高知県産業振興センターに補助金を交付し、共催で商談会事業を継続する。 	<p>行政の一般的な支援施策であり、APへの位置づけ可否を要検討</p>
<p>ポータルサイトを利用する企業の利便性は上がったと思われるが、利用実態やその効果がつかみづらい。</p>		<p>行政の一般的な支援施策であり、APへの位置づけ可否を要検討 （製造業ポータルサイト以外の取り組みがなければ成長戦略に吸収することも要検討）</p>
<p>事業主体及び取り組みの内容が具体化しておらず、成果は見えていないが、ニーズとシーズのマッチングに取り組むことで新たな展開も期待できる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業スキームの確立 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業訪問等を通じて取り組み内容を明らかにしていく。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>19. はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化</p> <p>「おまちの再興」「観光客を呼べるまちづくり」を目指し、「東西軸エリア活性化プラン」に基づき、官民協働でプランを推進し、幅広い経済効果やビジネスチャンスに繋げる。</p>	<p>□歴史資料館 基本設計の実施（工期：H23.3～23.10）</p> <p>□図書館 ・5月 基本計画中間とりまとめ(案)のとりまとめ ・6月 基本計画(案)のとりまとめ 県市両議会・両教育委員会へ報告</p> <p>□空き店舗対策 ・高知県こうち商業振興支援事業（空き店舗対策）（H22年度交付決定 5件：H23年度交付決定 1件） ・事業内容の要件の見直しを検討 ・高知市空き店舗活用創業支援事業の継続（H22年度認定分継続 2件） ・高知市空き店舗活用創業支援事業の見直しを検討</p> <p>□イベント等への支援 ・高知県こうち商業振興支援事業（商業振興支援）（H22年度交付決定 1件） ・事業内容の要件の見直しを検討</p> <p>□チャレンジショップの開設 ・4月 委託の対象となる商店街振興組合等への説明会の実施 ・5月・6月 事業実施の合意形成が図られた商店街振興組合等からの事業提案書の提出及び委託契約締結（京町・新京橋商店街振興組合）</p> <p>□憩いのスペース ・中央公園の整備（複合遊具設置等）について、内容検討（H23年9月以降に実施予定）</p> <p>□案内板等の充実や多彩なまち歩き ・4月～ エリア内にある既存看板等の調査</p>		<p>中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 増加傾向に歯止め</p> <p>商店街等の通行量 (夏期・休日) (H20 5.6万人/日) 減少傾向に歯止め</p> <p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H22.12 13.4%)</p> <p>商店街等の通行量 (H22.12 5.8万人/日)</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>46のプラを熟度の高いものから順次実施しているが、事業開始から日が浅く、具体的な成果には至っていない。</p>	<p>【課題】 ・熟度の低い事業のスピード化</p> <p>【方向性】 ・フォローアップ会議にてPDCAサイクルを通じて必要な見直しを行っていく。</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>20. 中心商店街でのアンテナショップの運営</p> <p>中心商店街において、常設のアンテナショップを開設し、地域製品の販売促進や都市部の住民を対象にしたマーケットリサーチにより、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加に資する。</p>	<p>「地域商店街活性化法」を活用し、産業振興計画で取り組んでいる「地産・地消」、「地産・外商」の推進と魅力ある商店街づくりを行うため、県内最大の消費地である高知市中心商店街の活性化を図ろうとする事業者の取り組みを支援</p> <p>○事業概要 ・地産地消・地産外商促進事業 ・中心商店街支援事業 ・コミュニティ事業</p> <p>○補助金 【平成21年度（実績）】 国32,087千円，県8,022千円，高知市8,021千円） 【平成22年度（実績）】 国34,225千円，県8,556千円，高知市8,556千円） 【平成23年度（交付決定額）】 国43,464千円，県10,849千円，高知市10,849千円）</p>	<p>・平成22年2月19日県産品アンテナショップ「てんこす」がオープン 【H22.2.19～H23.2.18】 ・初年度売上目標額87,889千円に対する総売上額 89,191千円（目標達成率100.3%） ○地産地消・地産外商促進事業 ・地域製品の掘り起こし：業者数251業者、アイテム数 2136品 ・店頭販売 8市町村 14民間事業者 ・テストマーケティング：業者数13業者 ○中心商店街支援事業 ・こじゃんと文化祭、ナイトバザールなど中心商店街を回遊させるイベントを開催 ○コミュニティ事業 ・高齢者向け講座：17回、延べ214人 内容：骨粗鬆症予防など ・子育て世代向け講座：15回、延べ143人 内容：離乳食作りなど ・子供向け手作り教室：7回、延べ118人 【H23.2.19～H23.6.30】 ・2年目1日当たり売上目標額292千円に対する実績額 260千円（目標達成率88.9%） ○地産地消・地産外商促進事業 ・地域製品の掘り起こし：業者数287業者、アイテム数 2743品 ・新規テストマーケティング：業者数 2業者 ○コミュニティ事業 ・高齢者向け講座：7回、延べ70人 内容：脱水症予防など ・子育て世代向け講座：4回、延べ49人 内容：離乳食作りなど</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 増加傾向に歯止め</p> <p>商店街等の通行量 (夏期・休日) (H20 5.6万人/日) 減少傾向に歯止め</p> <p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H22, 13.4%)</p> <p>商店街等の通行量 (H22.12 5.8万人/日)</p>
<p>21. 多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり</p> <p>せり出し市等の多彩なイベントや、フラフ等による季節的な演出などにより、おまちのにぎわいを創出する。</p>	<p>(フラフ等による演出) ・フラフのデザイン開始</p> <p>(イベント等) ●H22年度 【商売と一体となったイベント事業】 ・100円商店街イベント実施（はりまや橋商店街：3/26） ・値引き市イベント実施（帯屋町一丁目商店街：3/26） ●23年度 【季節イベント等実施分】 5月 こうち春花まつり2011、母の日イベント 6月 父の日イベント 5月～7月 まちなかよさこいストリートダンス（毎月第2日曜）</p>	<p>・イベントの実施による商店街への誘客</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 増加傾向に歯止め</p> <p>商店街等の通行量 (夏期・休日) (H20 5.6万人/日) 減少傾向に歯止め</p> <p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	

総括	今後の方向性	備考
<p>○地産地消・地産外商促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度売上目標を達成 売上高約 89,181千円 達成率 100.3% ・生産者へのフィードバックや提案により商品のブラッシュアップにつながった。 ・地域で作られる新商品情報の収集、取扱い（販売）やテストマーケティングへのアプローチを強化する必要がある。 ・補助金終了後の安定した運営のためにも更なる売り上げのアップへの取組みが必要 <p>○中心商店街支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業への誘客は一定図れたものの来街者の回遊性を高めるまでには至らなかった。 ・事業への参加者の増加と来街者の回遊性を高めるために内容の再検証、ブラッシュアップを行い事業の充実を図る必要がある。 <p>○コミュニティ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講座内容は受講者に好評であるが、尚一層、講座（商店主を講師とする講座の開催）の充実を図っていく。 ・店舗内のオムツ替え・授乳施設の利用が少ないことから、引き続き周知を図る。 	<p>○地産地消・地産外商促進事業</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金終了後の安定した運営のためにも更なる売り上げのアップへの取組みが必要 <p>【方向性】</p> <p>商品の掘り起こしや店頭販売等の現在の取組みに加え、以下の取組みを強化していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BtoBの販売の強化 ・平日の売り上げの向上 ・カタログ販売、インターネット販売の向上 ・イベント等との連記 <p>○中心商店街支援事業</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業への誘客は一定図れたものの来街者の回遊性を高めるまでには至らなかった。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業への参加者の増加と来街者の回遊性を高めるために内容の再検証、ブラッシュアップを行い事業の充実を図る必要がある。 <p>○コミュニティ事業</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の充実 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座（商店主等を講師とする講座の開催）の内容の検討、実施 	
<p>イベントの実施により一時的に人手が増えるなど商店街の賑わいにある一定の効果がみられる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客力の向上 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に効果的なイベントの展開、PR活動の充実を図ることで、商店街の回帰、売り上げ増につなげる。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>22. おまちに関する情報発信の充実</p> <p>おまちに関する情報を、より多くの人に届けるために、ガイドブック、ホームページ、ブログ等を幅広く活用し、総合的な情報発信を行う。</p>	<p>【おまちの情報発信関係協議】 4月以降3回開催 【HP】 「おまち」のホームページよさこいタウンリニューアルおよびブログ・ツイッター開始。 【おまちの週末情報】 おまちに関する情報の収集体制を充実させ「週末情報」として、よさこいタウンをはじめ、HP、メール等にて配信、商店街等への掲示、情報提供により、試行的におまち情報を配信中。</p>		<p>中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 増加傾向に歯止め</p> <p>商店街等の通行量 (夏期・休日) (H20 5.6万人/日) 減少傾向に歯止め</p> <p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H22. 13.4%)</p> <p>商店街等の通行量 (H22.12 5.8万人/日)</p>
<p>23. 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上</p> <p>新たな高知市中心市街地活性化基本計画を策定し、多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取組を進める。</p>	<p>中心市街地活性化基本計画の策定に向け具体策の洗い出し ●H21年度 6/1 第5回高知市中心市街地活性化基本計画検討委員会 ●H22年度 11/29 第7回高知市中心市街地活性化基本計画検討委員会開催 2/22 第1回追手前小学校西敷地土地利用検討部会開催 ●H23年度 4/12 中心市街地活性化幹事会を開催 4/20 四国地方整備局との協議 4/21 四国経済産業局との協議 4/26～ 関係各課ヒアリングおよび素案のフラッシュアップ開始 6/13高知市産業活性化推進本部会 6/16内閣府協議</p>		<p>中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 増加傾向に歯止め</p> <p>商店街等の通行量 (夏期・休日) (H20 5.6万人/日) 減少傾向に歯止め</p> <p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H22. 13.4%)</p> <p>商店街等の通行量 (H22.12 5.8万人/日)</p>
<p>24. 清流鏡川や浦戸湾などの地域資源の活用と近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進</p> <p>アユ群れる清流鏡川や浦戸湾などの地域資源を活かした滞在型・体験型観光を推進するとともに、周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、周遊ルートづくりを行うことによって、1泊以上できる観光地づくりを目指す。</p>	<p>・鏡川河口域のアユの生態調査の実施 ・「漁業体験エコツアールin浦戸湾」「まるごと体験！鏡川！」「わくわく源流体験」の実施 ・広域観光推進検討会（高知中央広域市町村圏事務組合主催）参加。 ・仁淀川地域観光協議会への高知市のオブザーバー参加。 ・高知市内の宿泊施設の着地型旅行商品追加開発に対する県の産振補助金ステップアップ事業による支援。</p>	<p>・「漁業体験エコツアールin浦戸湾」（参加者21名）「まるごと体験！鏡川！」（参加者46名）「わくわく源流体験」（参加者32名）。 ・第三種旅行業の登録を受けて着地型旅行商品を造成している高知市内の民間事業者（宿泊施設）が県の産振補助金ステップアップ事業を活用して、高知市及び高知市近郊の着地型旅行商品を新たに15プログラムを追加開発するとともに専用ホームページ等を制作。 ・仁淀川リバーツーリズムとして、仁淀川流域の観光施設と高知市の観光遊覧船、土佐っ歩などの体験型観光を組み合わせたツアーコースが新たに造成された。</p>	<p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>観光客の入込み数 (H22 326万人)</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>中心街ホームページ(よさこいタウン)は昨年よりリニューアルを図り、ブログ、ツイッターによる情報発信を開始。同時に関係団体等との相互リンクを実施。また、いままでなかった、「おまちに特化した情報」を収集し試行的におまち情報を配信中。成果はこれから。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確立 ・観光の情報発信との連携 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度の高い情報をタイムリーに発信していく体制を作るとともに、既の実施している観光分野での情報発信とも連携するなどより効果的な仕組みづくり。 	<p>H23新規項目</p>
<p>高知市中心市街地活性化基本計画の24年度の策定に向けて策定作業は順調に進んでいる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搭載事業のブラッシュアップ(補導センター跡地、民間事業等) <p>【方向性】</p> <p>核となるハード事業が少なく、また民間の事業が少ないことから、活用可能な土地での活性化事業について検討及び協議を進める</p>	<p>行政の計画策定に向けた取り組みであり、APへの位置づけの可否について要検討</p>
<p>民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がり、周辺地域の活性化へ寄与している。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域との連携の強化 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市(民間事業者含む)と近隣の観光協議会等との連携を一層深め、一体となった観光メニューの作成やPRなどにより、中央部で1泊できる観光地づくりへとつなげていく。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>25. 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立</p> <p>全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「高知県産オリジナル鳴子ブランド化検討協議会」にてオリジナル鳴子について検討。 ・東西軸エリア活性化プランにて共用地方車の設備の整備について検討。 ・「よさこいおもてなし事業」により高知市「よさこいおもてなし隊」がH23.7月から年末までJR高知駅前こうち旅広場にて毎日よさこい踊りを披露やよさこい体験を実施することとしている。 		<p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>観光客の入込み数 (H22 326万人)</p>
<p>26. 映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致</p> <p>「よさこい祭り」を題材にした映画の製作を支援し、「よさこい」発祥の地として全国にアピールするとともに、ロケ地を観光ルート化することにより、観光客の増加につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「君が踊る、夏」の製作に対する県・市の観光補助金による支援 ・映画「君が踊る、夏」ロケ地マップ作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画公開（H22.9/11）から10月18日までの間に全国で17万人の観客を動員し、全国によさこいのPRをすることができた。 	<p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>観光客の入込み数 (H22 326万人)</p>
<p>27. 観光情報の集約と情報発信力の強化</p> <p>観光客の多様なニーズに対応するため、観光と物産に関する情報を集約するとともに、インターネットや携帯情報端末を積極的に活用して、多様で特色あるPRを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こうちユビキタス観光コンテンツ協同組合が運営する「こゆび」の本格運用開始され、9宿泊施設で携帯端末45台を貸し出し。 ・webマガジン「旅色」高知版の事業主体に対する県・市の補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こゆび」については携帯端末を利用した観光情報を提供する新しい仕組みと推進体制ができ、また、観光情報の発信ができた。 ・webマガジン「旅色」高知版の定期的な更新による県外観光客への誘客。 	<p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>観光客の入込み数 (H22 326万人)</p>
<p>28. 「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大</p> <p>「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催で、つながりのできた「エンジン01」会員への高知の魅力のアピールを通じて、県外観光客の誘致につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン01の開催 ・民間団体を実施主体とした高知エンジン02の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン01講師との関係性が構築されたことにより、オープンカレッジ終了後も講師を招いてのコンサートや講演会等を高知で開催することができ、高知の文化・芸術振興につながった。 また、講師のブログ・雑誌コラム等のメディアにより高知についての情報が発信され、高知の知名度の向上とイメージアップに貢献していただいた。 	<p>観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人</p>	<p>観光客の入込み数 (H22 326万人)</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>2011サッカー「アジア大会」でよさこいが披露されるなど、民間の力で一部成果はあったものの、よさこいのルーツをアピールする体系的な動きとなっていない。ただし、よさこいおもてなし隊は、よさこい本番以外において、よさこいを見学・体験していただくことができ、よさこいの本場高知をアピールする機会となっている。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業スキームの見直し <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本家よさこいを効果的にアピールするためには、何が必要かといった視点で再検討する。 ・オフシーズンを含め、年間を通して「よさこい」による集客が可能となるような「よさこい」の活用方法について検討を行う。 	
<p>「君が踊る、夏」は、そのほとんどが高知でのロケであり、高知の観光名所やよさこいの魅力がふんだんに盛り込まれていることから、映画のロケ地の観光ルート化を目指したロケ地マップの配布により全国によさこいのPRをすることはできたが、事業目的である「観光客の誘致」につながったかどうか把握は困難。</p>		<p>よさこいのPRと誘客の戦略であり、今後はNo.25で展開していく方向で要検討。</p>
<p>こうちユビキタス観光コンテンツ協議会が運営する高知の観光情報サイト「こゆび」のHPは充実してきており、旅行エージェントによる旅行商品にも組み込まれている等一定の誘客効果が認められる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度の向上による利用の増加 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登載する観光情報の充実、更新により、滞在型観光の振興を図る。 	
<p>講師の多くが観光特使として、あらゆる場面で本県のPRに多大な貢献をしていただくなど、一定の成果があった。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政のかかわり方 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間主体の良さを活かして集客力の高い企画を展開し、継続的開催につなげることを期待するとともに、行政として必要な支援を検討する。 	

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
29. 温泉開発による観光地としての魅力の向上 観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	高知市旅館ホテル温泉協同組合の組合員が温泉施設化への設備投資を意思決定するための材料として、「平成22年度中小企業組合等活路開拓事業」を活用して、施設浴槽に試験的に温泉水を導入する「温泉フェア」を実施し、利用者へのアンケートも実施した。		観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人	観光客の入込み数 (H22 326万人)
30. 「龍馬伝」を契機とした観光の振興 坂本龍馬の志や生き様に触れようと、全国から数多くの龍馬ファンや観光客が訪れる中で、2010年のNHKの大河ドラマ「龍馬伝」を契機として、さらなる観光振興につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光遊覧船3号艇への県の産振補助金・市の観光補助金による支援 ・観光遊覧船1号艇のトイレ設置等への県・市の観光補助金による支援 ・土佐っ歩は既存6コースをリニューアル、特別コース2コース（土佐勤王党コース・長宗我部コース）を新設して実施（H23.4/1～） ・高知市立龍馬の生まれたまち記念館での外国語（英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）パンフレット作成及び音声ペンをを使った展示物の外国語ガイド開始（H23.4月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ○観光遊覧船 H21：3,765人 H22：5,897人 H23.4～6：1,981人 ○土佐っ歩 H22.1～12：3,342人 （まち歩き 18,415人） H23.1～6：945人 （まち歩き 1,220人） 	観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人	観光客の入込み数 (H22 326万人)
31. 食による観光の推進と地域物産との連携 高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「はりまや箸」ははりまや橋商店街及び高知商業高校生徒により商品化し、販売中。 ・高知県が生産量日本一を誇る食材（ニラ、ナス、ショウガ、ミョウガ、シシトウ、ユズ、シラス）を使った新たなアイデア料理を募集し、新名物料理（「しらすラーメン」及び「なるこ丼」）が誕生。 ・高知市内9店舗（H21時点）で新名物料理を提供。 ・学校給食版しらすラーメン約2万食を高知市内の小中学校で提供。 		観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人	観光客の入込み数 (H22 326万人)
32. 土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上と情報発信 坂本龍馬を始めとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高めるとともに、県外に情報発信することで、観光客の誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・仁井田吹井地区の瑞山記念館の展示物のリニューアルを県市の観光補助金により支援。 ・長宗我部関連のゆかりの地のマップを作成し、配布及びホームページでの公開により高知市地域の関連史跡等を周知。 ・長宗我部連絡協議会発足、長宗我部フェス、初陣祭の開催 ・第23回全国龍馬ファンの集い-高知大会（H23.10/22・23開催（予定））。 	・瑞山記念館の展示物の充実により、土佐っ歩の新コースに組み込まれる。	観光客の入込み数 (H19 230万人) 300万人	観光客の入込み数 (H22 326万人)

総括	今後の方向性	備考
<p>高知市旅館ホテル温泉協同組合では、温泉観光地化の実現に向けた調査を実施し、既存の温泉源を活用しタンクローリーによる配湯と新規温泉開発についてコスト、リスク、実現スピードを比較し、既存温泉活用が有利として検討を進めたが、温泉水の購入コストが計画当初より増加したこと等により、経営面において現実的でないと判断した。このため、協同組合では、改めて新規温泉開発によるビジネスモデルを検討することとなった。</p>	<p>【課題】 ・新規温泉開発及びコスト、リスクの再検討</p> <p>【方向性】 ・事業主体によるビジネスモデルに対し可能な支援について検討を進める。</p>	
<p>観光遊覧船は3隻体制で運航開始したH22年度の乗船客数は前年度より着実に増加。 土佐っ歩はH23.4からコースをリニューアルして参加者のニーズに対応したコースとなり、また、高知市郊外を巡る「土佐勤王党コース」及び「長宗我部コース」を設定する等魅力が向上している。</p>	<p>(観光遊覧船)</p> <p>【課題】 ・乗船客数の増加のための企画商品づくりとPR</p> <p>【方向性】 ・セールスキャラバンへの参加等による旅行代理店への売り込み ・新たな企画商品づくりにより多様なニーズへの対応</p> <p>(まち歩き)</p> <p>【課題】 ・まち歩きの更なる魅力向上と団体客の確保</p> <p>【方向性】 ・旅行代理店への売り込みなど積極的なPR活動</p>	
<p>新たなご当地グルメの取り組みについては、一時高知市内9店舗で提供されていたが現時点では1店舗に減少となるなど、新たな食の創造につながっていないこともあり、今後の食に対する取り組みの見直しをする必要がある。</p>	<p>【課題】 ・事業スキームの見直し</p> <p>【方向性】 ・土佐のおきやくや皿鉢祭などの「食」をテーマにしたイベントの充実</p>	
<p>武市半平太旧宅と墓周辺の観光資源の磨き上げを行ったことにより、県内外からの観光客から好評を得ている。また、長宗我部関連イベントも定着しつつあり、当初の事業目的を一定達成することができた。</p>	<p>【課題】 ・関連施設を中心としたまち歩きなどのソフトの充実</p> <p>【方向性】 ・龍馬や半平太、また長宗我部元親など土佐の偉人の紹介により、土佐の歴史の魅力向上につなげていく。</p>	